4th IRTG Joint Symposium への参加報告

理学研究科 物質理学専攻（化学系）・D3
若林 拓

出張先：ドイツ, Münster University
出張期間：2023/5/12～5/19
出張目的：4th IRTG Joint Symposium への参加

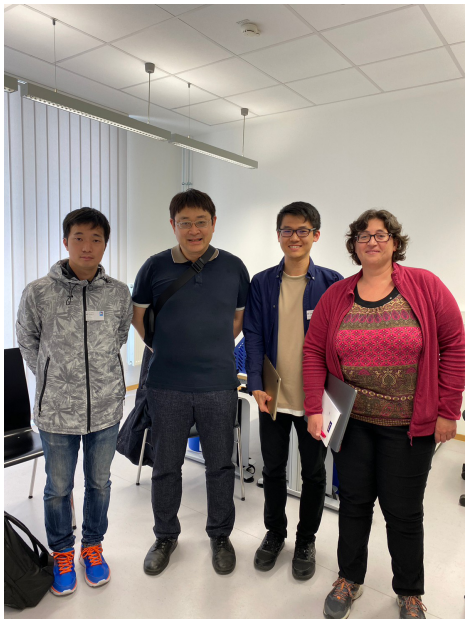
【概要】

GTR-IRTG ジョイントプログラムの一環として開催された 4th IRTG Joint Symposium に参加するため、ドイツの Münster 大学へ赴いた。シンポジウムを含めた学術交流に 2 日間参加し、それ以外にも Münster 大学学生との異文化交流を目的として様々な体験を行った。

【所感】

シンポジウムに関して

シンポジウムでは教授陣の発表もさることながら、ポスターセッションで Münster 側の学生と活発にディスカッションをしたことがより印象に残っている。Münster 学生は発表時に多くの抑揚・ジェスチャーが取り入れられており、聴衆を飽きさせない工夫が感じられた。この翌日には、Münster 大学の PI とのディスカッションを行った。ありがたいことに私は 4 人の PI との場を頂くことができた。全てのディスカッションで自身の研究の更なる発展に対して非常に有意義な意見を頂くことができた。特に、有機化学の大家である Prof. Glorius と研究や科学に関してディスカッションできたことは貴重な経験だったと思う。



Prof. Garcia と

その後の夕食会でも、それ以外の PI の先生とも会話をすることができ、充実した時間を過ごすことができた。今回の訪問で Münster 大学 PI に少しでも私のことを覚えていただけていたなら、今後の研究活動に対してもとても有意義な出来事になったのではないかと思う。

異文化交流に関して

これが個人的に初めてのヨーロッパ上陸だったのだが、見るもの全てが日本の様式と全く異なっており、非常に新鮮で刺激的な日々だった。到着日は日本人学生で街を散策し、ヨーロッパ式の教会や街並みに非常に驚いた。シンポジウム開催日以外の 2 日間は、異文化交流を目的として両校の学生同士でビリヤード、ウィークリーマーケット、教会巡りなどいろいろな体験を行った。Münster はドイツの中でも特に古い街並みを残している地区らしく、またそのことを逐一説明してもらえたので、非常に見聞が広がった。各所では schnitzel や spargel など伝統的なドイツ料理をいくつも経験させてもらった。

St. Lamberti 教会

Münster 学生はオープンな性格の方が多く、英語があまり流暢でない私たち日本人とも気さくに様々なことを話してくれた。また、Prof. Studer の研究室で籍を得ている Dr. Dirk は、夕食の際にアカデミアへ進むことに関する考え方や情報に関して私に沢山のことを話してくれ、非常に嬉しかった。

今回の海外出張では Münster 大学の PI の先生方と多くの交流をすることができ、共同研究のコネクションを広げることができた。加えて、実際に現地に赴き異国の学生と会話をしたことで、海外に関する価値観が大きく変わったように感じる。このような貴重で素晴らしい経験を下さった GTR プログラムに厚く感謝する。

今回の joint symposium で出会った Münster 大学学生と